

# 新基地建設反対名護共同センター ニュース

欠陥機オスプレイの飛行停止と普天間基地の閉鎖・返還。米兵性暴力の隠蔽を糾弾する

## 県民大集会に2500人余

われわれは抗い続ける

八月十三日で米軍普天間基地所属のヘリが沖縄国際大学に墜落して二十年になる前に、欠陥機オスプレイの飛行停止と同基地の閉鎖・返還を求め、米兵の少女暴行と政府による事件隠蔽を糾弾する県民大集会が八月十日に宜野湾市のユニオンですからドームで二千五百人余の参加で開催されました。

オール沖縄会議と第三次普天間爆音訴訟団と第四次カテナ爆音差止訴訟団の三団体の共催となりました。

普天間爆音訴訟団長の新垣清涼氏は「いじめられて虐げられて抑えつける状況を許してはいけません。はね返そう」と力をこめて訴えました。

オール沖縄会議の稲嶺進共同代表は「米国の顔色を伺い、県民を守らない日本政府は独立国家とは言えない、植民地そのものの状況で起きたと言わざるを得ない」と強調！

玉城デニー知事は名護市辺野古で工事が進んでいる現状に触れ、辺野古移設への反対を改めて強調し「勝つことは諦めず、みんなで力を合わせて頑張っていこう。どのような形であろうとも、私たちは決して屈することなく心を前向きに手を携えて力強く歩んでいこう」と呼びかけました。

米兵から性暴力を受けたオーストラリア人のキャサリン・ジェーン・フィッシュャーさんも訴えました。



## 子どもを守れなかったことが悔しい！県民ぐるみの大会を開こう！

—沖縄県女団協が怒りと抗議のスタンディング—

米兵による少女誘拐暴行事件など相次ぐ米兵の事件を受けて、沖縄県女性団体連絡協議会(女団協 伊良波純子会長)は、8月29日(木)に県民広場(県庁前)で、“県民大会を開こう”と沖縄県女性団体連絡協議会加盟団体の外23団体70人が参加し、スタンディングとリレートークで訴えました。

度重なる米兵による女性への性的暴行事件、それを見逃して県(県民)へ報告もしない国への怒り、多くの女性たちが抗議の声を上げています。

1995年の少女暴行事件の時のように県民あげての抗議集会を開こう、と県議会や市町村議会、県内政党、諸団

体へ呼びかけています

リレートークで発言した高校や中学校の教師は、「子どもを守れなかったことが悔しい。再びこんな事件が起こらないように、子どもたちを傷つけないためにも、県民大会を開いて、全国へ、世界へ基地あるが故の事件をなくそう！訴えていこう！」と涙ながらに訴えました。「米軍を優先させる政府のやり方が許せない」と強い抗議の声もありました。

この女団協などの訴えに、憲法改悪反対沖縄共同センターなどが早速県議会などへ「県民大会を開け」と要請行動を行うことを予定しています。

9月11日に行われた賛同団体などとの話し合いの場で、今後の予定について、再度県議会議長に対し県民大会開催の要請を行うこと。また賛同団体からも県議会議長へ単独あるいは連名で行動をしていこうと意思統一をしました。



## 「やんばるの森を守る、高江座り込み17周年報告集会

東村高江の「やんばるの森」で、米軍北部訓練場のヘリパッド建設強行に抗議する座り込み一七周年の報告集会が、七月七日東村農民研修施設で行われました。

「ヘリパッドいらぬ住民の会」の清水暁氏は開会挨拶で、「北部訓練場で二〇二二年に兵士が銃器を持ち県道を歩行訓練することがあった。今年北部訓練場でオランダ軍が演習に参加していたことが報道されたが政府は把握しておらず問題化もしていない。大型軍事車両が細い県道で無理な切り返しで通行の妨げになり危険な状況が目撃されている。」と。「これ以上の軍事化を進めないため、命豊かな水源を守るために訓練場を撤去し、元の森に戻す訴えを続けたい」と述べました。

ジュゴン保護キャンペーンセンターの吉川秀樹氏は、やんばるの森を真の世界遺産にするためにユネスコや世界自然遺産連合(「UCN」)などの国際機関に働きかけを行い、現在、沖縄防衛局は廃棄物の撤去をしている。自分たちの期待通りにはいかないが少しずつは動いている。今後の取り組みとしては、「戦争、軍事化から世界遺産を守る」条項と仕組みを作ることをユネスコや「UCN」などの国際機関に伝えていく」と報告がありました。

講演したフリージャーナリストの布施祐仁氏は、「ジャーナリストの一番大きな責任は戦争を起こさせないこと。権力が真実を隠して戦争を起こすようなことをいち早く見抜いて止めること。」が、自身とジャーナリズムの役割と話し、南西地域、琉球弧への自衛隊配備の問題も、本音が、ことが住民・国民に説明されないまま進められている。当初、日本国防衛と言っていた南西地域への陸自配備は、実際には台湾有事が起きた時に米軍と自衛隊が一体となつて南西諸島やフィリピンを米軍の盾として使う、そういう位置づけに変わってしまったと批判…。

戦争を回避するために日本がやるべきこととして、①軍備強化でなく、外交の強化と対米従属からの脱却。②ASEANと連携して「米中対立」を克服する仲介外交を展開する。③「主権国家」として、日本国内で米軍の行動をコントロールできるようにする。事前協議制の強化、日米地位協定の改定を挙げ、「主権がなければ平和はない」と「主権を確立すること」の重要性を強調しました。